



熊本支部報

(公社) 日本山岳会熊本支部

第51号

令和3年8月20日発行

編集・発行者 中林 暉幸

(公社)日本山岳会熊本支部事務局

熊本市中央区帯山 1-25-17-801

山本 直 方



高岳・天狗の舞台とミヤマキリシマ)

目 次

1 コロナ禍の中の課題 (支部長) …… (1)	③ 里山低山クラブ・宇土半島九州自然歩道 (安場俊郎) … (7)
2 誌上登山教室：バリエーション山行② (土井 理)…(2)	④ トレーニング同好会・阿蘇高岳 (中林暉幸) …… (8)
3 今年度後期 (2021年4月～7月) 活動報告	⑤ 花を愛でる会・白鳥山 (城戸邦晴) ……
① 令和3年度支部総会 (事務局) …… (4)	4 寄稿・個人山行 双六岳～黒部五郎岳縦走 (坂本雄二) …… (9)
② 花を愛でる会・小岱山 (城戸邦晴) … (4)	・菊池溪谷沢歩き (安場俊郎) …… (15)

1 コロナ禍の中の課題 (支部長) 中林暉幸

津波のように繰り返し押し寄せるコロナ禍、2021(令和3)年度もコロナ禍に呑み込まれる1年のような気配です。やっとワクチン接種が本格化し、五里霧中の中にささやかな光が見いだせるかと思う矢先、第5波の襲来です。不要不急の外出自粛を強いられ、支部活動も中止あるいは縮小を余儀なくされて1年半、さていつまでの我慢でしょうか。一日も早く平常の活動ができることを祈るしかありません。

一方で、日本山岳会としての大きな課題、創立120周年記念に向けた全国山岳古道調査が始まっています。2023年度まで3年ほどの時間をかけての調査研究となりますが、支部関係の調査も、まだ先の見通しが鮮明とは言えません。今後本部の古道調査PTの知恵をお借りしながら、薄れゆく先人の足跡を辿り、記録として残す作業を進めていかなければなりません。山岳会ならではの意義ある文献として纏めることができればと思います。会員会友の皆様方のご支援を切にお願いいたします。

2 誌上登山教室 (副支部長) 土井 理

国際認定山岳医でもある熊本支部副支部長の土井理先生による誌上登山教室、今回は第8回目です。前回、バリエーション山行・八ヶ岳大同心稜・横岳 or 硫黄岳編を述べていただきました。今回はバリエーション山行に必要な物紹介していただきます。

バリエーション山行

②：バリエーションに必要な物

先号から「バリエーションルート」の記載を始めました。本来は最初に記載すべきでしたが、バリエーション登山に必要な物を記載し、考えたいと思います。バリエーション登山は、少し違いもあるかもしれませんがアルパイン登山と近似と考えて良いかもしれません。

基本、登山道の無い所を登山するものです。その為に、通常の登山より多くの体力と知識が必要になります。ザイルを使用した登攀技術と知識、懸垂下降の技術と知識、登攀道具の使い方が必要になります。冬山では当然、アイゼン(12本爪)、ピッケル、状況によってはアイスバイルが必要になります。今回必要な道具とその使い方を記載し、参考にして頂きたいと思います。

必要な道具：ザイル(シングル或いはダブル)、ザイルにはシングル、ダブル、ツインと3種類に大別されます。シングルは1本で使用する物、ダブルは可能であれば2本で1本での使用も可能な物、ツインは必ず2本で使用しなければならないザイルです。アルパイン登山は一般的に1本で使用する為に、シングル或いはダブルとなります。シングルロープは一般的に太くて重く、丈夫ですが持ち運びに不便です。ですからダブルを使用される頻度が多い様です。近年、シングルの細い軽いザイルも出現し少し様相が変わってきています。



カラビナ(安全環付きカラビナ)、スリング(ダイニーマスリング)、支点の構築や自分や人の確保、懸垂下



降には必須のアイテムです。環付きカラビナにはスクリューロック、ワンタッチロックがあります。凍ってしまうと外れなくなることもありますので、自分の使い慣れた物が重要です。最近では安全環の無い

デュアルゲートカラビナもあります。やはり使い慣れが必要です。スリングは、ナイロンスリングとダイニマスリングがありあます。ナイロンスリングは太く重く、アルパインには不向きです。スリングは 120cm の物、60cm の物が最も汎用されます。状況によってはプルジックコードを持参します。

確保器・下降器(エイト環・ATC・ルベルソ・グリグリ等)、ザイル登攀する時の登攀する人が落ちないように確保する為の道具であり、ザイルで懸垂下降する時の道具で、バリエーション登山・アルパイン登山には必須の道具です。エイト環はザイルが捻じれるので最近はあまり使用しません。ATC、ルベルソ、グリグリが一般的です。



ハーネス(シットハーネス)、体にハーネスを装着します、自分が落ちないように自己確保したり、仲間が落ちないように確保したりする為に。懸垂下降する為に、登攀する道具を装着しておきます。ザイルやスリングで作る事も出来ますが、食い込んで皮膚が痛くなります。バリエーションルートを登攀するのであれば必須と考えてください。



クイックドロウ (ヌンチャク)：登攀する時の中間支点到、ロープをかけたりする為のマルチピッチの登攀やアイスクライミングには必須な道具です。テープスリングの両方にカラビナが付いたものです。形が空手のヌンチャクに似ているので一般的にヌンチャクと呼んでいます。

ナッツ・カム：岩の割れ目に引っ掛けて支点にする為の物です。下に向かって狭くなっている割れ目、内より外が狭くなっている岩の割れ目に入れて固定し支点にします。割れ目によって使用するサイズを選択します。



アイスクリュウ：氷の壁を登って行く時に、氷にねじ込んで体が落ちないように支点とする為の道具。アイスクライミングに使用する道具です。

アイスバイル・アイゼン：氷壁を登る時に使用する道具です。

ヘルメット：バリエーションルートを登山には絶対必要な物です。落石や落氷で頭に当たると、死亡したり意識を無くしたりします。絶対に必要な道具です。



このような道具を必要に応じて、必要な数を持って、持っている物でどうやって登攀するかよく考えて登山に挑みます。これがバリエーション登山です。既にボルト等で支点があつてあるルートも多く有ります。次回からまたルートに戻ります。



3 2021年度前期（2021年4月～2021年8月）支部活動報告

① 令和3年度支部総会

既に支部通信5月号でお知らせしていますが、今年度の支部総会はコロナ禍の中であり、できるだけ文書による議決を要請し、参加者数を縮小して4月25日実施しました。支部会員36名のうち会員13名の出席と委任状15名の参加をもって、議事は提出5議案の承認が行われました。今年度の支部事業も採択承認されました。しかし昨年同様コロナ禍で、早速5月、6月の行事は全面的に中止せざるを得ない状況となりました。今後も実施に当たってはコロナ次第と言えます。

●中止した支部活動

- ・5/13 キャンプ同好会：龍門ダム泊・八方ヶ岳
- ・5/16 春の登山教室・大崩の辻
- ・5/23 春の森林保全巡視登山・高岳
- ・6/6 登山技術講習(岩登り)：植木町岩野山
- ・6/19 里山低山クラブ 阿蘇オケラ山
- ・7/31 登山技術研修(沢登り)
- ・8/8 山の日登山祭
- ・8/21 ビールパーティ

《同好会》

② 花を愛でる会：小岱山（コバノミツバツツジとトキワマンサク） 記録 城戸邦晴

期 日 2021(令和3年)4月11日

参加者 中林暉幸、田北芳博、池田清志、伊藤松弘、多田和子、末永保則、森尾奈美、松尾重俊、木下洋子、城戸邦晴（計10名）

行程等 9:00 ふるさと自然公園集合、9:20 出発、10:20 丸山、11:30 観音岳(昼食～12:15)、12:40 展望台、1:15 人形岩、1:50 観音岳、2:00 唐渡岩、3:00 ふるさと自然公園、3:45 トキワマンサク自生地、4:20 山田の藤、4:50 解散

(観察した花) コバノミツバツツジ、ヨドガワツツジ、ヤマツツジ、コバノガマズミ、マルバアオダモ、ミツバアケビ、ギンリョウソウ、ハルリンドウ、フデリンドウ、ヒメハギ、シャガ、シロツメクサ、ヤブツバキ、トキワマンサク、カラタネオガタマ（山田神社にて）

今年は花の咲く時期が異常に早く、小岱山も例外ではなかった。コバノミツバツツジは昨年が沢山咲いたので今年は少なかったようだ。ヤマツツジはまだほとんど蕾だった。目的のコバノミツバツツジは盛りを過ぎていたが、場所によってはまだ美しく咲いており、丸山旧道から観音岳主稜線上に多く見られた。観音岳に至る途中ソウシチョウがさえぎり、すぐ頭上の枝で姿を見せてくれた。声も姿も美しい鳥だが特定外来生物に指定されている。登山道の足元にはギンリョウソウがあちこちに咲いていた。今回は人形岩に立ち寄り、唐渡岩コースを下ったが、これらの周辺にコバノミツバツツジがきれいに咲いていた。ここはちょっとした岩



場ルートで、普段登る小岱山とは違った顔を見られて、険しいが面白い登山となったようだ。

帰路府本に廻り、自生するトキワマンサクの花(右)を見学した。満開を過ぎていたがまだその美しさを保っていた。ここは日本に3箇所しかない貴重な自生地と言われている。

最後に立ち寄った玉名の山田の藤棚は圧倒的な咲きぶりであった。ここには一般の見物客が大勢マスクをつけて集まって来ていた。



③里山低山クラブ：宇土半島九州自然歩道ウォーキング報告

2021. 4. 18(日) 報告/安場俊郎

参加者 ☞ 坂本、森尾、植木夫妻、芥川、前田、中林、木下、池田、安場（敬称略） 10名

コース ☞ 石打ダム駅→九州自然歩道→阿蘇神社→大田尾横断車道→高野山→三角岳→天翔台→三角小学校→三角駅

支部行事として当初計画の4/17(土)が雨模様につき、1日延ばして翌日の日曜日に実施された。日程変更のため参加出来なかった方が数名おられたが、最終的に10名となった。

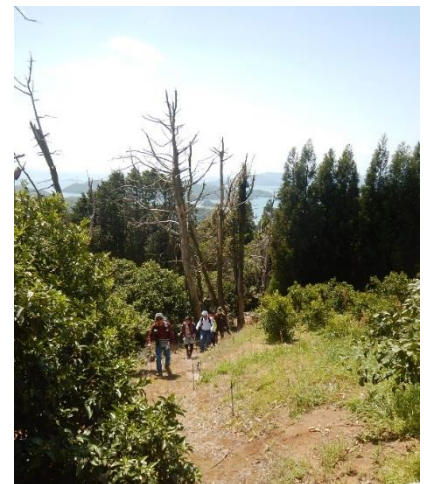
熊本駅を8時6分に発車した2輻編成のディーゼルカーは乗客もまばらで、我々の他に登山客が4名、三角駅から三角岳への登山客と思われた。

海岸線を走る列車は山の中に入り石打ダム駅で下車、駅前のトイレを済ませて前の車道を西へ歩き始める。この辺では誰もなく車内で着用していたマスクを外し、お喋りしながら進む。

やがて踏切を渡り車道は登り坂となり自然歩道の標識《大田尾・三角駅》を見て右折、竹林のジグザグに登っていき、ミカン畑のショートカットを進むと不知火海と天草の島が見え始め、前日の雨の空気が洗われて景色を楽しむことが出来た。

阿蘇神社で休憩したあと、社殿横のショートカットの山道に入り、自然歩道の車道に合流、ミカン畑の間を歩くこと約1時間あまりで半島を横断する車道を横切り、高野山への苦しい登りにかかる。高野山には無線塔があり、景色を楽しみながらの昼食となる。

自然歩道はここから三角駅まで山道となり、三角岳までの急登が控えているため、残念ながら植木ご夫妻はタクシーで三角駅までの下山となった。ここからはこれまでの車道と異なり、気持ちの良い広葉樹の林が続き、約1時間半で三角岳山頂。(上)



ここで14時となり三角駅発15時57分の列車に間に合わせるよう先を急ぐが、天翔台のイワガサの花観賞の機会を逃したくなくてそちらに回ったため、三角駅で我々の目の前で無情にも目的の列車は発車してしまった。

列車内で飲む予定の仕上げのビールも待合室でとなったが、1時間ほど待つてほろ酔い加減で列車に乗り込んだ。

今回の山行は距離10.8Km、休憩も含め約7時間余りの山歩きとなったが、熊本では列車を利用しての登山が難しくなっている今日、お勧めしたいコースである。 天翔台→



③ トレーニング同好会：阿蘇高岳

(担当 山本直 代行 中林暉幸記)

2021.7.4(日) 梅雨の中、微妙な天気担当の山本さんから、一旦中止の連絡を発したが、いづらか持ちこたえられそうで、参加希望者と連絡を取り合い、雨もトレーニングのうちとして、雨具覚悟で改めて参加を確認、予定通り実施することにした。都合6名の参加であった。

参加者：中林暉幸、石井文雄、田北芳博、坂本雄二、本田敦子、森美代子(新会員初参加)

(担当の山本さんは、都合により不参加、中林が代行)

行程：山上駐車場→砂千里→クリカラ谷→中岳南峰→中岳→高岳→中岳→皿山→山上駐車場

阿蘇山上駐車場8:30集合、雨はないが雲が低く風が強い。雨具上を着て8:40出発。一行6人が出発する少し前に、別行動で浦川さん、國武さんも来ていて、都合で一足早く行動するというので出発して行った。遊歩道を行く頃、雨が少し振り出し、砂千里に入ると深いガス、視界は10m程度。砂千里南稜線、クリカラ谷上部の岩稜ガレ場中間でと、小休止をとりながらもゆっくり上がる。途中、浦川さん、國武さんの2人と出会う。強風で中岳南峰で引き返してきたという。9:52ガレ場上の稜線、11:03中岳南峰着、しかし風が強く少し先に下った白川中生遭難碑で小休止。視界は相変わらず10mほど、汗はほとんどかかない。雨で濡れた物も風で乾くほど、体調は皆悪くないので中岳、高岳を目指すことにする。10:22中岳頂上、雨はないが、突風に注意、足を踏ん張り体勢を低くして飛ばされないよう注意を促しつつ高岳を目指す。10:47高岳頂上到着、突風にあおられよろめく。頂上の標柱に掴まりながら集合写真撮影、東側の岩陰に入り大休止昼食をとる。一時薄日が差すくらいに明るくなったかと思うとまた暗くなる。むしろ寒さを感じるくらいで長居は無用と、11:15早々に下山開始、視界は相変わらず10mほど。中岳に戻り、仙酔峡への新ルートを確認し南峰へ向かう 11:47南峰通過、ガレ場を中間点まで下ると下界の雲が取れ砂千里がくっきりと見えたと思うとまた隠れる。12:35砂千里南稜線、一息ついて最後の登り皿山に向かう。10分余りで皿山北峰、やはり景色は望めない。新ルートを下り遊歩道に出るとほぼ今日の行程終了、13:22駐車場に帰着、風は出発時と変わらないが、山上ほどではない。次第に薄日差す。心配した雨はそれほどでなく深いガスの中、強風に気を使った山行であったが、トレーニングとして貴重な体験でもあった。13:45頃解散、帰路一時大粒の雨に見舞われた。 高岳頂上→



阿蘇高岳山行記 「阿蘇高岳への登山」 森 美代子

朝 4 時に起き、昼食のおにぎりを作りながら、ミヤマキリシマの咲く頃に仙酔峡から登った高岳・中岳を思い出し、今日またあの絶景に会えるのかと胸躍らせ、準備を整えた。少々到着時刻には早過ぎると思いながら 5 時には自宅を出発した。阿蘇の山に向かうにつれ霧雨が振り出し、初めての道をナビを頼りにゆっくり車を進め、草千里の駐車場に着く頃には辺りは真っ白で 2 m 先も見えず駐車場にあったたった一台の車にホッとした。

皆が集合するまでの時間空模様を心配しながらスマホで山の天気予報を何度も確認して、登っていかれる方々を見送った。

初対面の方々に挨拶を終え、準備体操を済ませ、早速登山道へ向かう。10 分も歩かないうちに雨が降り出し上着を着た。砂千里を歩く頃はガスがかかり、周りは真っ白になった。岩場を滑りそうになりながら、急登に行く頃には大粒の雨になっていたが、それもまた楽しみながら皆についていく。稜線に出た。天気良ければ雄大な景観が広がっているのだろうと思いながら強風とガスの中を前の方を見失わないように進んだ。山頂は全く見えず、天狗の舞台を楽しみに登ったが、岩場で風をよけながら昼食をとった。早々に下山に向かったがやはり暴風と雨の中、足元に注意しながら、滑らないよう一步一步岩場を降りた。まだ知らないルートを案内してくださったので、帰りは別のルートだった。

悪天候の中高岳、中だけを登頂できたのは皆さまのおかげです。またとない貴重な経験がいき、暴風の中での歩き方等教えていただきました。まだ登山と呼べる山に登って 8 ヶ月余りです。現在月 3~4 回のペースで九重の山々を三座は登ろうと思っています。とても楽しくて山好きになりました。今後ともご指導よろしくお願ひいたします。(新会員として初めて参加していただいた感想をいただきました)

④花を愛でる会・ 白鳥山夏の山行報告

城戸邦晴

7 月 25 日(日)天候：曇り

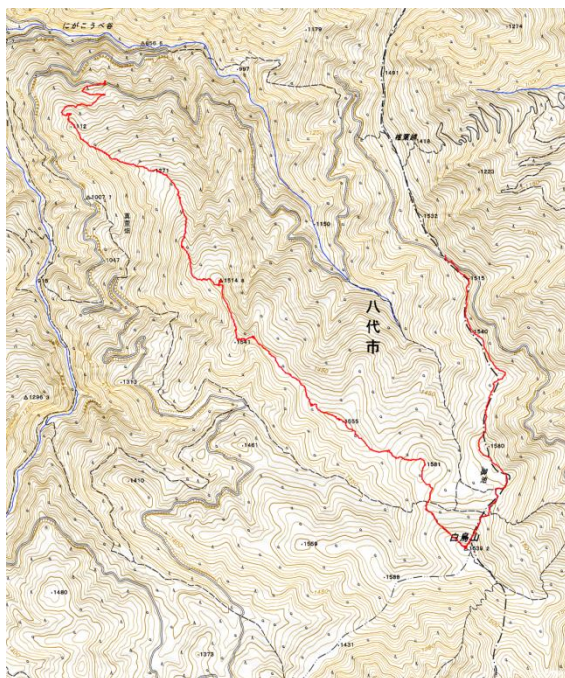
7：00 道の駅佐俣の湯駐車場集合、車 2 台に乗合せ 7：15 出発、9：15 峰越着、

9：20 峰越登山口出発、11：30 白鳥山頂着、12：20 白鳥山頂発、御池湿地経由 14：00 峰越登山口着

14：10 峰越発、15：15~15：35 二本杉峠にて休憩、16：20 佐俣の湯着、解散

この日下界は曇っていたが、山上は霧だった。風も出てきて、少し寒かった。峰越から御池へ続く稜線の道を歩いて行くと、ヒメシヤラはすぐにあらわれた。花びらに赤い滲みのあるヒコサンヒメシヤラ。ヤマシヤクヤクの赤い実も見られた。御池に至るとヤマアジサイ、ヤマジノホトトギス、ウバユリなど次々にあらわれた。平家残党平清経住居跡の標柱を見て 昔^{いにしえ}を偲ぶ。山頂の手前で別ルートを登ってきた安場・石井会員と会う。帰路は御池を廻るコースで、風穴に感心し、ぬかるむ足元に気をつけながら湿地を

(右の地図は安場さん提供、今回歩いたのは右半分です)



巡る。一瞬、鹿が姿を見せた。花を見、写真を撮りながら往路と同じ道をゆっくり進んだ。登山口帰着のころ霧雨となった。

(観察できた花) コガクウツギ、ギボウシ、ウバユリ、コオニユリ、テンナンショウ、ハナナス、イチリンソウ、ツルアジサイ、ヤマジノホトトギス、ヤマアジサイ、ヒコサンヒメシヤラ、フタリシズカ、イケマ、オオルリソウ、オトギリソウ、キンミズヒキ、バイケイソウ、ヤマジオウ、 以上 18種

(参加者) 中林暉幸、田北芳博、橋本悦子、池田清志、多田和子、森美代子、木下昭二、本田敦子、木下洋子、城戸邦晴、(計 10名)



5 寄稿（個人山行）双六岳・三俣蓮華岳・黒部五郎岳縦走

（令和2年9月14日～19日）

坂本雄二

2020（令和2）年9月14日から19日まで、NHCの山行で、新穂高温泉から双六岳、三俣蓮華岳、黒部五郎岳を経て、折立まで6名で5泊6日で縦走する。スタートした時点では、いい天気だったが、後半から強い雨にたたられ、あまり景色を楽しめず、少し残念な山行になる。

9月14日（月）晴れ

6:01	さくら 540	9:24	9:34	ひかり 502	10:42	10:48	ワトビューひだ7	13:10
熊本駅	=====	新神戸駅	=====	名古屋駅	=====	=====	高山駅	・・・
徒歩 3分		13:40		15:08		徒歩		15:20 頃着
・・・	高山濃飛バスセンター	=====	新穂高	中尾高原	・・・	民宿	まほろば（泊）	

5時45分熊本駅に集合し、6時1分発の新幹線で、山行に向け出発する。天気がいいことと同時に山行への期待が膨らむ。電車、バスを乗り継いで午後3時半ごろ、新穂高温泉の旅館に着く。食事まで時間があり、散歩をして付近の風景や花々の写真を撮る。



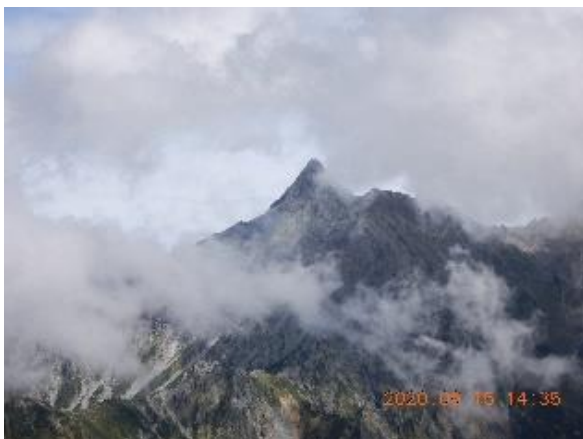
9月15日（火）晴れ

5:15	5:30	5:40	7:35	朝食	7:55	8:17
まほろば	=====	新穂高温泉登山口	-----	わさび平小屋	-----	小池新道入口
9:23		11:15		12:20	12:55	14:10
秩父沢出会い	-----	シシウドガ原	-----	鏡平山荘	-----	弓張分岐

						双六小屋



この日は、新穂高温泉登山口から双六小屋までのトレッキングをする。天気も良く、美しい花々が多く、楽しい山行になる。ただ登り一辺倒で暑くて疲れる。旅館のご主人に、新穂高温泉登山口まで送ってもらう。5時40分、橋を渡り、川の右岸のホテルから湧き上がる温泉の湯気をみながら、トレッキングに入る。途中多くの花々がある。小池新道入り口までは広くて歩きやすい道である。良く晴れて東南の方向に西穂高岳の雄姿が見える。秩父沢出会いからゴロゴロした小岩の上を歩く。チボ岩、イタドリガ原、シシウドガ原を経て、鏡平山荘に着く。鏡平山荘で池に映る槍ヶ岳を見ながら昼食をとる。昼食後1時前スタートする。弓張（乗越）分岐、花見平を経て、双六小屋を目指す。花見平を過ぎてしばらくして、ハイマツの中に雷鳥が現れる。そして双六小屋の奥に鷲羽岳の雄姿が見えるようになる。





9月16日(水) 晴れのち曇り

5:50	7:15	7:25	8:55	9:05	10:00 昼食 12:30
双六小屋	-----	双六岳	-----	丸山	-----
				三俣蓮華岳	-----
					三俣山荘 (
		15:15			
		・・・鷲羽岳)	-----	黒部五郎小舎	

双六小屋を5時50分に出発する。雲は多いが晴れである。7時前、双六台地からの三俣蓮華岳や黒部五郎岳の眺めがよい。7時15分双六岳に着く。槍ヶ岳に続く登山道の風景が素晴らしい。双六岳は平坦で広く、小岩が散らばっている。周囲の眺めも良い。



ただ、空は曇り空になる。写真を撮った後、双六岳から三俣蓮華岳を目指す。途中に見える山々の姿も美しい。8時55分三俣蓮華岳に着く。山頂部は平らである。下る途中のガレ場で、イワギキョウとその先に見える笠ヶ岳の風景が素晴らしい。鷲羽岳の麓に三俣山荘がみえてくる。素晴らしい景色である。

10時5分、三俣山荘に着く。鷲羽岳が初めての3名は空身で鷲羽岳の登山に向かう。昨年鷲羽岳に登った3名は残り、昼食をとる。3人が下山後昼食を食べたあと、黒部五郎小舎を目指す。アツプダウンを繰り返し、西方に黒部五郎岳とカールが見える。黒部五郎小舎が下の鞍部に見えたらほっとする。



9月17日(木)曇り時々小雨

5:57	8:37	8:55		
黒部五郎小舎	黒部五郎カール	黒部五郎ノ肩	黒部五郎岳 (中野ノ俣岳)	
11:00	12:00	13:20	15:10	15:25
中ノ俣乗越	赤城山	北ノ俣岳	太郎山	太郎平小屋

5時57分、黒部五郎小舎をスタートする。外は雨である。周りはガスって何も見えない。小屋に稜線コースは危険で避けてくれとの案内があった。私たちはカールコースをとる。ガスの中を黙々と歩く。はめているメガネがすぐに曇って前が見えなくなるので、眼鏡をはずして歩く。どこを歩いているのか全く見当がつかない。黒部五郎ノ肩までの登りはザレていて急登であり、喘いで登る。ただ、黙々と歩く。カールを過ぎ、黒部五郎ノ肩までの登りがきつい。肩から約20分で黒部五郎岳に着く。ガスの中、山頂で写真撮影をする。このころから雨はやむ。肩に向け下山する。黒部五郎ノ肩から中ノ俣乗越、赤木山、北ノ俣岳、太郎山とアツプダウンを繰り返す。太郎山に続く木道を歩いていると、少しガスが切れ、周囲が見えるようになる。登山道と池塘などが見え、晴れていたなら素晴らしい景色だと思った。太郎平小屋が見えてくると、その先に雲をまとった雄大な薬師岳も見えた。

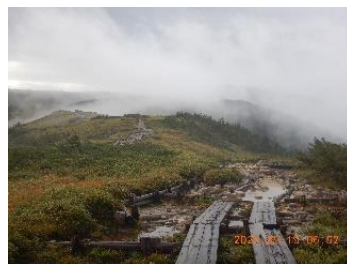




9月18日(金) 雨

5:50	6:30	8:40	10:00
太郎平小屋	薬師平キャンプ場	ケルン	薬師岳山荘
			薬師岳 11:30
13:30	14:00		
薬師岳山荘	ケルン	薬師平キャンプ場	太郎平小屋

朝から強風で強い雨が降る。私は眼鏡が曇って歩きづらいことも考えて、薬師岳登頂をあきらめる。小屋で寝て過ごす。他の5人は、薬師岳の登山に出掛け予定通りに小屋に帰ってくる。相当風雨が強かったとのこと。1名はザックカバーを飛ばされたのに気づかなかったとのこと。別の1名は足をねん挫して太郎平小屋に帰ってくる。(その人は、後で病院に行ったら、骨折していたとのこと。完治まで3か月半かかったとのこと。)



9月19日(土) 雨のち曇り

4:00	8:30	9:00	タクシー	11:00	13:00	13:15	13:23
太郎平小屋	折立	====	満天の湯 (入浴後昼食)	不二越駅	電鉄富山駅	
14:17	14:39	15:19		18:03	18:18	21:39	22:15
富山駅	金沢駅	新大阪駅	熊本駅	====
		自宅					
	つるぎ 719号		カンダ-パ-ド 32号			さくら 569号	

霧雨でまだ暗い中、4時ごろ、太郎平小屋をスタートする。途中で朝食を取り、下山口の折立へと向かう。折立に近い下の方の登山道は、多くの登山者で荒れてどろどろになっていた。約4時間で折立に着く。予約してあった大型タクシーで、富山市の「満天の湯」まで行く。「満天の湯」で汗と汚れを落としさっぱりする。付属のレストランでゆったりと昼食をとる。昼食後、「満天の湯」前の不二越駅から富山駅まで電車に乗る。新幹線乗り継ぎ、21時39分熊本駅に着き、解散する。



双六岳、三俣蓮華岳、黒部五郎岳 縦走地図

新穂高温泉から双六岳



双六岳から三俣蓮華岳経由、黒部五郎小舎





黒部五郎岳方面
から
太郎平小屋、折立

菊池溪谷沢歩き報告

(当初沢登り研修として実施する予定であったが天候悪化のため中止、個人山行として実施)

2021年8月1日(日曜日) 前日の菊池市内の天気予報では降水率30%で昼間はおおむね曇りの予想であったが、AM3時頃熊本市内では強い雨が降り、5時頃には小雨模様になってはいた。

この雨量では溪谷の水嵩が増えて沢に降りるのは危険と判断されたため、参加申込の9名の方にラインとSMSで中止の連絡を流した。

集合地である菊池神社下駐車場のAM7時、様子見に集まった浦川、渡邊(高1浦川さん孫)池田のさんが来られたため、せっかくだから溪谷沿いの遊歩道でも歩いてみよう、近くに住む石井・中村に安場を加えた6人で2台の車に分乗、4人は溪谷ゲートで下車、1台を上流の清水谷入口に残置したあと、AM9時頃から雨具をつけて右岸の遊歩道を途中にある水量の増えた2つ滝を見物しながら上流へ歩いた。

広河原橋上流付近での水深は足首上程度だったため試しに入溪、水は薄濁りで、歩く部分は深い所で膝下程度であったため溪谷の緑の木立と水の流れを楽しむ事が出来た。途中、通過困難な部分の1カ所は右手の林道を歩く場面があったが、水に落ちることもなくAM1時過ぎに無事に清





水谷橋で林道に上がって終了した。

計画では8月8日(日)順延の予定であったが雨で実施できないでいる。この地の沢歩きは膝下まで濡れる程度なので10月ぐらいまで楽しめる。今後、天気の良い日に今回の参加希望者を含め、他の会員会友にも呼びかけて実施したいと希望している。



(文責 安場俊郎)

事務局より (会員会友の異動 2021年3月～7月) : (敬称略)

会友退会 : 高屋敷しの、井上美由紀、椿 千鶴、小田博章 (以上 2021年3月)

新会友 : 木下昭二(熊本市西区)、本田敦子(熊本市中央区) (以上 2021年4月)

渡邊心暖(菊池市泗水町) (2021年7月)

新会員 : 森 美代子(熊本市中央区) (2021年7月)

《編集後記》

昨年今年と新型コロナウイルスの感染問題は収まる様相はなく消長を繰り返しながら拡大の一方です。その波にのまれるように支部活動は自粛、中止のやむなきに至っています。残念ながら本来実施すべき計画の半分も実施できていません。したがってこの支部報の活動報告も自ずから少なくなってしまっているのは寂しい限りです。先頃の分厚い支部報が懐かしくさえ思えます。支部としての活動以外の個人的な山行などの情報、あるいは山の話題に限らず随想、紀行文その他、奮ってご投稿いただければありがたく歓迎いたします。原稿は下記までお寄せください。

(支部報編集担当) 中林 暉幸 Eメール tenakaran@yahoo.co.jp

☎ 090-5289-3817